

慶應義塾大学学術情報リポジトリ  
Keio Associated Repository of Academic resources

Title	最近のプリズイーヴィ (ПРИЗЫВЫ)について
Sub Title	"ПРИЗЫВЫ", its recent tendency
Author	中澤, 精次郎(Nakazawa, Seijirō)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1961
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.34, No.3 (1961. 3) ,p.1- 29
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19610315-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19610315-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 最近のプリズィーヴィ(ПРИЗЫВЫ)について

中 澤 精 次 郎

は し が き

一九五七年一〇月の *The American Slavic and East European Review* 誌<sup>(1)</sup>に Daniel N. Jacobs の論文が記載されている。この論文は、ソ連邦共産党中央委員会が、五月一日のメーデーと一月七日の一〇月社会主義革命記念日を記念して、毎年、発表し続けてきた一九五七年五月に至るまでの間の数多くのプリズィーヴィ(ПРИЗЫВЫ)を概観し、一九五七年のメーデーのプリズィーヴィの特異性をそれ以前のプリズィーヴィとの比較において明かにするとともに、かかる特異性をソ連の時の對外的ならびに對内的な政策と關連づけて説いている。しかれば、D. Jacobs によると「やつとのこと<sup>(2)</sup>で、ソヴェトのスローガン・メーカー達が、諸スローガンの落込んでしまった瀕死の状態に大膽に立向かおうと努力した」ことを示している<sup>(2)</sup>と見られた一九五七年五月以後の、すなわち最近のプリズィーヴィはいかにあるか。

通常、五月一日ならびに一月七日の二、三週間<sup>(3)</sup>前の、ソ連邦共産党中央委員会機關紙 *Правда* の第一面に發表されてきたメーデーならびに革命記念日のための諸々のプリズィーヴィ、別言するとプリズィーヴィを記載した諸リストは、これ

らを相互に比較してみると、D. Jacobs の實證的な研究をまつまでもなく一つとして同一ではない。リストによつてブリズィーフ (привилья) すなわちアピールの數に差異のあるのは無論のこと、内容的にも各種各様の變化が、表現上のいわば片言隻句的な變化をも含めて、現に認められる。しからばこのような變化は果して追跡に價いするものであろうか。まずもつて反省しなければならぬ點であろう。しかしその際に忘れてならぬことは、追跡しようとするブリズィーヴィイの變化は實は國家權力のはなはだ巨大な、しかも非公開的な性格の強い體制の下、權力の諸社會領域への滲透の著しい狀況の下において生起していることである。<sup>(5)</sup> しかもブリズィーフ乃至ブリズィーヴィイという語は、今日のソ連においては、特定のアピールあるいはスローガンのみを意味すること、すなわち黨中央委員會がメーデーならびに革命記念日のために用意するアピール以外には使われていないことを見逃してはなるまい。とはいえかかる事實は、勿論、ブリズィーヴィイにみられる歴史的な變化の具體的な意味を直ちに傳えるものではないわけである。變化の個別的な追跡によつて、ソ連研究の上にかなる視角あるいは問題點が與えられるであらうか。

かかる觀點から本稿は、最近の、すなわち一九五七年のメーデーから一九六〇年のメーデーに至るまでの間の若干のブリズィーヴィイの、<sup>※※</sup>いにかえると諸リストの比較検討を試みる。<sup>※※</sup>なお、リストはいずれも對外的な諸アピールと對内的な諸アピールの二つの部分から構成されているので、本論においてもこの構成を尊重して、まず前者を、ついで後者を取上げてみるが、この點についてさらに一言しておきたい。すなわちそれは、いずれのリストにおいても、對外的な諸アピールからなるその前半と對外的な諸アピールからなるその後半はそれぞれまた二つの部分に分けられること、交響曲に譬えていえば、いずれのリストも「第一樂章的な諸アピール」、「第二樂章的な諸アピール」、「第三樂章的な諸アピール」から構成されており、またこのような把握によつてこそ、一九五七年のメーデーから一九六〇年のメーデーに至るまでの間の諸リストの相互の比較が正しく可能となると考え、本論の敘述を前記のような形式によつて整理しました統一した

と「うご」である。

※ 個々のプリズィーヴィはこれを厳密に記述すると、たとえば一九六〇年のメーデーのそれは、「一九六〇年メーデーのためのソ連邦共産党中央委員会のプリズィーヴィ」*призывы ЦК КПСР к 1 Мая 1960 года* ということになる。指摘するまでもあるまいが、プリズィーヴィとはプリズィーフ *призыв* すなわちアピールの複数形であり、しかも本稿では一個のプリズィーヴィではなくして複数のプリズィーヴィを同時に取扱う關係上、表現上の重複と煩雑さを避けるため、たとえば一九六〇年のメーデーのプリズィーヴィは一九六〇年五月のリストと、あるいはまた「大一一〇月社會主義革命四二周年記念日のためのソ連邦共産党中央委員会のプリズィーヴィ」*призывы ЦК КПСР к 42-й годовщине Великой Октябрьской социалистической революции* は一九五九年十一月のリストとのみ、本論では、記すことにした。なお、プリズィーフの數およびその配列について述べる際にはプリズィーフを「アピール」と、またそれ以外の場合には主として「呼掛け」と表現する。

※※ 本稿が取扱うプリズィーヴィを一九五七年のメーデーから一九六〇年のメーデーに至るまでの間のそれに限定したことは、D. Jacobs の研究が一九五七年のメーデーのプリズィーヴィに終つていたためからではなくして、一九五六年以前のプリズィーヴィはその一部を、しかもその多くは断片的にしか利用し得ない筆者のおかれた資料的な制約によつてであり、また一九五七年のメーデーのプリズィーヴィを研究対象の内に敢えて加えたのは、方法論において本稿は彼と立場を異にしているからである。

※※※ リストに現われた變化をソ連のその時々々の對外的ならびに對内的な政策一般との關連において解釋することには、少からぬ牽強附會的な危険が伴う。往々にしてかかる解釋あるいは説明には、豊富なしかも多様なリスト外的な素材の内から適當な素材が拾出されて適宜に利用される恐れがなくもないからである。したがつて本稿ではリストに現われた變化を、リスト以外の素材の助けをかりずに、リストそれ自身によつて語らしめることとした。勿論、その結果は加工されない素朴な形での問題點の記述的な提示に終始することにもなるうが、それ故にこそ、今後のソ連研究の上に考慮されるべき乃至は手掛りともなり得べき點が見出されるのではなからうかと考えている。

(1) Daniel N. Jacobs, *Slogans and Soviet Politics, "The American Slavic and East European Review", Oct. 1957, p. 291-300.*

(2) D. Jacobs, *ibid.*, p. 291.

(3) 一九五七年のメーデーのプリズィーヴィは同年四月二二日の *「Prava* 紙上に發表されたが、一九五八年、一九五九年、一九六〇年のそれはそれぞれ年の四月一三日、四月一二日、四月一〇日に發表されており、また革命記念日のプリズィーヴィは、一九五七年では

その一〇月一三日、一九五八年ではその一〇月一日、一九五九年ではその一〇月四日の *Traba* 紙に見られる。したがって一九六〇年一月七日のためのプリズィーヴィイも近く發表されるわけであるが、この紹介は別の機会に譲り、本稿は一九五七年のメーデーから一九六〇年のメーデーに至る間の諸プリズィーヴィイを検討する。

(4) *D. Jacobs* は、一九一八年から一九五七年五月に至るまでの間のプリズィーヴィイすなわちリスト當りのアビールの平均数、およびセンテンスの平均数(ならびに一九五二年以後一九五七年五月に至るまでの間の個々のリストに記載されたアビールの数)をつぎのように記している。

アビールの平均数	センテンスの平均数	アビールの平均数	センテンスの平均数
一九一八—二七年	二九	一九五四年	六一
一九二八—三七年	四八	一九五五年	六一
一九三八—四七年	四九	一九五六年	七三(一九六)
一九四八—五二年	五五	一九五七年	七五(一九一)
一九五二年一〇月	六七		八四(二〇八)
一九五三年 五月	四七		七七(一五一)
” 十一月	五七		

(括弧内の数字はセンテンスの總計)

cf. *D. Jacobs, ibid., p. 291-292.*

しからば一九五七年一二月以後のリストについてはどのような数字が擧げられるか。参考までに記してみよう。

一九五七年 一月	八一(二六〇)	一九五九年 五月	九六(二〇四)
一九五八年 五月	八七(二七五)	” 十一月	九八(二一四)
” 十一月	九四(二八八)	一九六〇年 五月	九七(二一三)

勿論、プリズィーヴィイの歴史はこのような數的變化を無視しては語れない。

(5) たとえば、*B. D. Wolff* は、*簡略露英辭典*(ソ連國立内外辭書出版所發行)に記載された種々の用例すらもがその時々々の國家權力をよびつて甚しく左右をわけてくる事實に注目してゐる。cf. *Bertram D. Wolff, Six Keys to the Soviet System. Boston, 1956, pp.*

(6) *ПРИЗЫВЫ* は *ПРИЗЫВЫ* の複数形。五月一日のメーデー、十一月七日の革命記念日のために發表されるソ連邦共産党中央委員會の呼掛けが *ПРИЗЫВЫ* と呼ばれるに至つたのは一九四三年以後のことである。それ以前においては *РОЗЫНКИ* と呼ばれていた。

## —

一九六〇年のメーデーの *ПРИЗЫВЫ* を例にとるとこのリストの第一から第四一に至るまでの諸 *Апелл*、すなわち主として對外的な諸 *Апелл* からなるリストの前半はいずれも、交響曲に譬えていえば、その第一樂章に當る諸 *Апелл* と第二樂章に當る諸 *Апелл* から構成されており、また「……ソヴェト連邦のレーニン主義的對外政策萬歲！」という呼掛けをもつて閉じられた第二樂章的な部分は、社會主義諸國および非社會主義諸國の國民を個別に對象とした諸 *Апелл* によつて組立てられている。

### 一 第一樂章的な諸 *Апелл*

「勤勞者の國際的團結の日、萬國の勞働者の親睦の日——メーデー萬歲！」<sup>(1)</sup> あるいは「大一〇月社會主義革命四二周年記念日萬歲！」<sup>(2)</sup> ——勿論、周年數は年毎に變る——という呼掛けをもつてはじまる第一樂章的な諸 *Апелл* のまづ形式についてみると、*Апелл* の數ならびにその配列は必ずしも一定してない。リストによつて増減があり、また變動がみられる。しかし配列上の變動は、主として、リストがメーデーのためのものであるかあるいは革命記念日のためのものであるかによつて生じた定期的・自動的な變動<sup>(3)</sup> でもある故、數の増減を、すなわち一九五七年五月のリストでは一〇であつたが、その後、一七、九、一二、一二、一三、一二と變つている第一樂章的な諸 *Апелл* の數の變化を取上げてみよう。

アピールの新設乃至は復活あるいは除去または併合に因る増減の振幅は、前記の數字から明かであろうように、一九五七年から一九五八年の間において著しく大きい。これは、一九五七年一月のリストでは八アピール<sup>(4)</sup>が新たに登場し、その八アピールのすべてが一九五八年五月のリストでは姿を消し、またその内の二アピール<sup>(5)</sup>が一九五八年一月のリストでは復活したためである。なおまた、この一九五八年一月のリストと一九五九年五月および一九六〇年五月のリストでは、いずれも記憶されねばならぬ内容の一アピールが、それぞれ、新設<sup>(6)</sup>されている。しかしながら数の増減のみからでは、いずれのリストにおいても当該リストの基調をなす若干の主題が打出されている第一樂章的な諸アピールの變化の全貌を正しく伝えることはまず困難である。数の増減には現われない呼掛けの對象あるいはその内容の修正または變更が少からず認められるからである。内容に目を移してみよう。

差當つて、一九五七年五月のリストの第一から第一〇に至るまでの諸アピールを整理してみると、そこにこのリストの、特にその前半の基調をなしている世界平和の確保・軍備の縮小とプロレタリア的團結の強化・社會主義的結束の緊密化という二つの主題が、對象を一應異にした呼掛けを通して、すなわち前者は「萬國の勤勞者」<sup>(7)</sup>あるいは「平和の擁護者」<sup>(8)</sup>への呼掛けを、また後者は「共產主義的、社會主義的およびすべての進歩的な諸勢力」<sup>(9)</sup>あるいは「社會主義諸國の人民」<sup>(10)</sup>への呼掛けを通して打出されていることに氣付く。しかもこの二つの主題そのものは、一九五七年五月のリストのみに止まらず、その後の一九六〇年五月のリストに至るまで一貫して受繼がれているところであるが、この過程に變化が全く見當らないわけでもない。まず、平和の維持・友好の増進・國際緊張の緩和、具體的には軍備の縮小・原水爆實驗の即時禁止・戰爭挑撥者の暴露という第一の主題についていえば、第一主題的なアピールの數の漸進的な増加、別言すると呼掛ける對象の一般化乃至は擴大化とそれに平行して進行した對象にたいする期待あるいは要求の具體化乃至は鮮明化が認められ、しかもこのような傾向は一九五九年五月以後のリストにおいて顯著となつている。また、プロレタリア國際主義の貫徹・社會主義陣營の結

東の強化という第二の主題についてみると、そこにも、呼掛ける對象の一般化、特に對象にたいする期待あるいは要求の鮮明化が認められる。<sup>(12)</sup> すなわち一九五七年五月以後の、特に一九五九年五月以後のリストにおいて顯著となつた變化は、世界平和の確保と社會主義的な結束の強化という黨の、したがつてソ連邦の對外的な一般政策の基本原則を、國際社會におけるより廣範な一般大衆により深く滲透させ、また特定の對象にたいしてはより鋭く銘記させようとする呼掛ける主體の強い意欲と決意の高まりを表示していることにならう。

しかしながら、一九五七年の五月から一九六〇年の五月に至るまでの間の諸リストにみられる變化を、既述のような傾向的な變化としてのみ把握することは許されない。一九五七年一月のリストはしばらく措くとしても、<sup>(13)</sup> 内容的に全く新しい呼掛けが一九五八年一月以後のリストにおいて登場しているからである。すなわち一九五八年一月のリストでは「ソヴェト連邦共産黨第二一回大會——共産主義建設者の大會萬歳！」と、一九五九年五月のリストでは「ソ連邦共産黨第二一回大會はわが祖國の新しい發展段階——共産主義建設の展開の段階への突入を記念した。第二一回黨大會の世界史的な諸決定の實現に全力を！」と改められ、一九五九年一月のリストでは「ソ連邦共産黨第二一回大會はわが祖國の共産主義建設の展開の段階への突入を記念した。ソヴェト連邦の人民！共産主義の建設という偉大な任務の遂行に全力、全精力を！」と、一九六〇年五月のリストでは「ソヴェト連邦の勤勞者！第二一回黨大會の世界史的な諸決定の、共産主義の建設という偉大な任務の遂行に全力を！」とある呼掛けが、それである。もつとも第二一回黨大會は一九五九年一月二七日から二月五日にわたつて開かれた大會である故、この大會の開催が豫定された以前のリストに前記のような呼掛けを求めることは、無論、許されるべきことではない。しかし、一九五八年五月以前のリストに第二〇回黨大會に關する呼掛けを見出すこともまたできないのである。<sup>(14)</sup> すなわち第一樂草的な諸アピールに現われた著しい變化として、一九五八年一月以後のリストでは、第二一回黨大會の諸決定の忠實且つ全面的な遂行という第三——この數字は主題の價値的な順位を示すものではない——の主



題が明確に提示されていることを見逃してはならぬと考える。

しからば一九五七年五月から一九六〇年五月に至るまでの間の諸リストの第一樂章的な諸アピールに現われた變化、具體的にいえば世界平和の確保と社會主義的結束の強化という二つの主題の加速度的な強調と第二回黨大會の諸決定の遂行という主題の登場は、第二樂章的な諸アピールにおいていかに展開されているか。つぎに、社會主義諸國および非社會主義諸國を個別に對象とした諸アピールを検討してみる。

## 二 第二樂章的な諸アピール

社會主義諸國を個別に對象とした諸アピール これらのアピールの數は常に一二であり、またその配列も一九五七年一月以後のリストでは變つていない。一九五七年五月のリストでは一二のアピールが、對象別に列擧すると、中國、ポーランド、チェコスロバキア、ドイツ、ルーマニア、ブルガリア、ハンガリー、モンゴール、朝鮮、ベトナム、ユーゴスラビアの順におかれていたが、一九五七年一月以後のリストではいずれも、中國、アルバニア、ブルガリア、ハンガリー、ベトナム、ドイツ、朝鮮、モンゴール、ポーランド、ルーマニア、チェコスロバキア、ユーゴスラビアの順に記されている。すなわち中國人民への呼掛けを除く社會主義諸國を個別に對象とした呼掛けは、すべて、ロシア語のアルファベット順に依つて配列された。したがつてその限りにおいては、中國を除く社會主義諸國は平等に取扱われるに至つたといえよう。しかれば呼掛けの内容についてはどうか。

第一に、いずれのリストにおいても常に首位におかれ、しかも「偉大な」という語を冠された中國人民への呼掛けについてみると、この呼掛けは、一九五八年五月以前のリストでは「社會主義の建設者である偉大な中國人民に兄弟的な挨拶を送る！ ソヴェト人民と中國人民との牢固たる友好と協力——全世界における平和の強力な防壁萬歳！」（傍點筆者）とあつた

が、一九五八年一月のリストでは傍點の箇所が「社會主義を建設し、中國の内政にたいする帝國主義的侵略者の干渉に斷固且つ一致して闘いつつある……」と改められ、さらに一九五九年五月および一月のリストでは「社會主義を建設しつつある……」と修正されており、また一九六〇年五月のリストでは「永遠の」という一語がはじめて加えられて、「ソヴェト人民と中國人民との牢固たる友好と協力……」は「ソヴェト人民と中國人民との永遠の、牢固たる友好と協力……」となっている。したがつてかかる變更が何故に加えられるに至つたのかは興味深い問題ともなろうが、ここでは、中國人民への呼掛けにのみ終始みられる特殊な表現を、いいかえるとアルファベット順位を無視して常に首位におかれたこの呼掛けの對象はたとえば「ブルガリア人民共和國の勤勞者」というような形式をとらず、ただ「中國人民」とのみ表示され、しかもそれに「偉大な」という語が冠されており、また「ソヴェト人民とブルガリア人民相互の……」ではなくして「ソヴェト人民と中國人民との……」と表示されている諸點が一九五七年五月以後終始變つてないことを、指摘しておきたい。

第二に、アルバニア、ブルガリア、ハンガリー、モンゴル、ポーランド、ルーマニア、チェコスロバキアの各人民共和國への呼掛けについてみると、これらの呼掛けはいずれも、同一のリストにおいては全く同様の形式と表現をとり、しかもその形式と表現が一九五七年五月以後一貫して變つてない。たとえば、中國人民への呼掛けを除く社會主義諸國への呼掛けが配列上は平等に取扱われるに至つた一九五七年一月のリストに、その第一九の「アビール」として「社會主義を建設しつつあるアルバニア人民共和國の勤勞者に兄弟的な挨拶を送る！ ソヴェト人民とアルバニア人民相互の牢固たる友好と協力萬歳！」（傍點筆者）というアルバニアへの呼掛けがみられるが、この傍點の箇所を「モンゴル人民共和國」、「モンゴル人民」と改めると、それは、たとえば一九五八年一月のリストの第二〇の「アビール、すなわちモンゴルへの呼掛けとなる。しかも一九六〇年五月のリストでは前記のような形式に、敢えて、「永遠の」という一語が、等しく、挿入された。ポーランドへの呼掛けを例にとると、それは「社會主義を建設しつつあるポーランド人民共和國の勤勞者に兄弟的な挨拶を送

る！ ソヴェト人民とポーランド人民相互の永遠の、牢固たる友好と協力萬歳！」とある。すなわちアルバニア、ブルガリア、ハンガリー、モンゴル、ポーランド、ルーマニアおよびチェコスロバキアへの呼掛けは、内容的に、相互に同一であるとともに、一九五七年五月以後不變であること、また一九六〇年五月のリストにおいては「永遠の」という一語が新たに加えられていることが注目される。なお「永遠の」というこの語はベトナムおよび朝鮮への呼掛け——勿論、一九六〇年五月のリストのそれ——にはみられるが、ドイツおよびユーゴスラビアへの呼掛けには見當らない。<sup>17)</sup>

第三に、ベトナム民主共和国、朝鮮人民民主共和国への呼掛けについてみると、一九五八年五月以前のリストにおけるベトナムへの呼掛けは、「新生活を建設し、民主主義に基づき、自國の民族的統一のために闘いつつある、ベトナム民主共和国の勤勞者に兄弟的な挨拶を送る！ ソヴェト人民とベトナム人民相互の牢固たる友好と協力萬歳！」(傍點筆者)とあつたが、傍點の箇所が一九五八年一月および一九五九年五月のリストでは「社會主義を建設し、民主主義に基づき自國の民族的統一のために闘いつつある……」と改められ、一九五九年一月のリストでは「社會主義を建設し、民主主義に基づき自國の平和的な統一のために闘いつつある……」と修正された。また一九六〇年五月のリストでは既述のように「永遠の」という一語が加えられて、「社會主義を建設し、民主主義に基づき自國の平和的な統一のために闘いつつあるベトナム民主共和国の勤勞者に兄弟的な挨拶を送る！ ソヴェト人民とベトナム人民相互の永遠の、牢固たる友好と協力萬歳！」とある。しかも「ベトナム民主共和国の勤勞者」への呼掛けに現われた前記のような變化は、「朝鮮人民民主共和国の勤勞者」への呼掛けにおいてもまた、全く同様に認められる。

非社會主義諸國を個別に對象とした諸アピール まずアピールの數についてみると、それは、一九五七年五月のリストでは八、その後のリストでは一〇、一一、一五、一四、一五、一六と漸進的に増加しており、そしてこの増加は、主として、アジアおよび中・近東の諸新興獨立國への呼掛けの新設に因るといつても差支えない。<sup>18)</sup> またその配列については、これらの

呼掛けの上位への進出乃至はこれらの呼掛けによる上位の占據をその特徴的な變化または傾向とみることができ(19)。内容にふれてみよう。

第一に、アジア、中・近東、アフリカ、南アメリカの諸國への呼掛けについてみると、これらの呼掛けにおいては、西歐諸國への呼掛けにはみられない「熱い挨拶」、時には社會主義諸國へのそれみられるような「兄弟的な挨拶」といつた特殊な表現が使われており、またその内容には修正あるいは變更が頻繁に加えられている。たとえば、一九五八年一月のリストにおいて新設の「自由と自國の民族的獨立のために闘いつつあるアフリカ人民に熱い挨拶を送る！」という呼掛けは、一九五九年五月のリストでは「自由と民族的獨立のための英雄的な闘争をなしつつあるアフリカの人民に熱い挨拶を送る！植民地および從屬國のすべての被抑壓人民に自由を！」(傍點筆者)と改められ、この傍點の箇所が、一九五九年一月のリストでは「自由と民族的獨立のために闘いつつある……」と、さらに一九六〇年五月のリストでは「植民地主義に反対し、自由と民族的獨立のために闘いつつある……」と修正されている。勿論、このような個々の呼掛けにみられる變化の逐一を具體的に紹介する餘裕はないが、「熱い挨拶」あるいは「兄弟的な挨拶」を送られた對象への呼掛けの内容には修正あるいは變更が頻繁に加えられていること、インドへの呼掛けは常に非社會主義諸國を個別に對象とした諸アピールの首位におかれ、しかも對象に「偉大な」という語が冠されていること、また一九六〇年五月のリストではインドネシアへの呼掛けがインドへのそれと形式と表現において全く同一であることが指摘されねばならない。

第二に、西歐資本主義諸國および日本への呼掛けについてみると、これらの呼掛けでは、インド、近東アラブ、ラテン・アメリカなどへの呼掛けにみられるような「熱い挨拶」は、例外的な若干を除いては見當らない。「兄弟的な挨拶」に至っては全くみられない。たとえば、一九五九年五月のリストにおけるイギリス、アメリカ合衆國、フランスへの呼掛けには「全世界の揺がぬ平和のためのイギリス、アメリカ合衆國、フランスの人民とソヴェト連邦の人民との友好と協力萬歳！」と

あり、またイタリアへの呼掛けには「ソヴェト連邦の人民とイタリアの人民相互の友好關係を發展させまた強化させよ！」とある。しかもこの種の呼掛けには、概して、リストによる大きな變化は見受けられないのである。スエーデン・ノールウエイ・デンマーク・アイスランド、オーストリアなどへの呼掛けはほとんどあるいは全く變つてない。しかし若干の例外はある。西ドイツおよび日本への呼掛けがそれである。これらの國の人民にたいしては常に「熱い挨拶」が送られており、しかもその内容はリストによつてしばしば大きく變つている。たとえば日本への呼掛けは、一九五七年五月のリストでは「軍國主義に反對し、自國の平和的、民主的および自主的な發展のために闘いつつある日本の人民に挨拶を送る！」と、一九五七年一月、一九五八年五月および一月のリストでは「軍國主義に反對し、自國の平和的、民主的および自主的な發展のため、闘いつつある日本の人民に熱い挨拶を送る！」(傍點筆者)とあつたが、一九五九年五月のリストでは傍點の箇所が「外國の軍事基地の根絶のため、自國の平和的、民主的および自主的な發展のために……」と、一九五九年一月のリストでは「自國領土内の外國の軍事基地の根絶のため、自國の民主的および自主的な發展のため、平和とすべての隣國との友好のために……」と改められ、一九六〇年五月のリストでは「軍國主義の復活に反對し、自國の自主的および民主的な發展のために……」と變更されている。しかしながら西歐資本主義諸國および日本への呼掛けが形式と表現において、またその變化の態容において必ずしも一様でないとはいへ、いずれの呼掛けにおいても「平和」「友好」あるいは「平和のための協力」という語が、常にしかもますます頻繁に使用され、且つ強調されるに至つては注目に價いするところである。(21)

(1) 「一九六〇年メーデーのためのソ連邦共産黨中央委員會のブリズィーヴィ」 призывы к КНС к 1 Мая 1960 года (Правда, 10 апреля 1960 года) ——以下では一九六〇年五月のリストという——の第一のアピール。なおメーデーならびに革命記念日のためのブリズィーヴィはすべて、ソ連邦共産黨中央委員會機關紙「Правда」によつて當日の二、三週間前に發表されている。この點については「はしがき」の註で既に述べているので、以下では典據の指摘を省略した。

(2) 「大一一〇月社會主義革命四二周年記念日のためのソ連邦共産黨中央委員會のブリズィーヴィ」 призывы к КНС к 42-й годовщине

Великой Октябрьской социалистической революции——以下では一九五九年一月のリストという——の第一のアピール。

(3) 「萬國のプロレタリア、團結せよ」という呼掛けは一九五七年五月のリスト——このリストにおいて新設——では第二のアピールとして登場したが、その後のリストでは、第一二、第二七、第二八、第二九のアピールとして、また「プロレタリア國際主義の旗をより高く掲げよ！」という呼掛けは一九五七年五月のリスト——このリストにおいて新設——では第三のアピールとして登場したが、その後のリストでは——もつとも内容的にはリストによつて若干變化しているが——、第一一、第三三、第三六、第三八、第三九のアピールとして現われている。一九五七年一月のリストで新設された「マルクス・レーニン主義」を稱える呼掛け（第五のアピール）、一九五七年五月のリストの「平和のため、民主主義のため、社會主義のために闘いつつあるすべての人民に兄弟的な挨拶を送る！」という呼掛け（第四のアピール）、一九五六年五月および一月のリストでは第二のアピールであつた、一九五七年五月のリストで新設された、「諸共產黨および諸労働者黨の思想的統一と兄弟的な團結」を強調する呼掛け（第七のアピール）もまたその位置は、リストによつて内容的には若干異るとはいえ、リストがメーデーのためのものであるかあるいは革命記念日のためのものであるかによつて定期的に變つてゐる。

(4) この八アピールとは「三、ソ連邦における社會主義の建設は一〇月革命の總決算である。ソヴェト連邦の労働者階級、エルホーズ農民、インテリゲンツィア——世界における最初の社會主義國家の建設者に榮光あれ！」「四、一〇月革命の指揮者、わが國の社會主義および共產主義建設の偉大な激勵者でありまた組織者であるソヴェト連邦共產黨に榮光あれ！」「五、マルクス・レーニン主義は一〇月革命の勝利の旗である。マルクス・レーニン主義の旗をより高く掲げよ！」「六、勤勞者代議員諸ソヴェト——わが國の眞に人民的な權力機關萬歳！ 社會民主主義萬歳！」「七、ソヴェトの労働組合！ 勤勞者の創造的な能动性を發達させ、生産の管理に労働者をより廣範に引入れよ！ 労働者および公務員の物質的福祉と文化的水準のより一層の高揚を倦むことなく考慮せよ！」「八、ソヴェトの婦人——共產主義の積極的な建設者萬歳！」「九、共產黨の忠實な助手でありまた豫備軍であり、共產主義の若き建設者の前衛であるレーニン主義的全連邦共產青年同盟萬歳！」を指す。なお一九五七年五月のリストの第九と第一〇のアピールは一九五七年一月のリストではその第一〇のアピールに統一されたため、このリストにおける第一樂章的なアピールの数は、前記の八アピールが加えられても一七に止まつた。

(5) この二アピールとは一九五七年一月のリストの第二と第五のアピール（ともに註4参照）を指す。なお前者はその内容から明かであるように革命記念日のリストにおいてのみ登場する。

(6) 一九五八年一月のリストで新設されたアピールとは第二一回黨大會に關する呼掛け（本論参照）であり、一九五九年五月のリストのそれは「一一、萬國の人民！ 《冷い戦争》の停止と國際緊張の緩和に努力せよ！ 可及的に速かなドイツとの平和條約締結と西ベル

リンの占領體制解消のために！」という呼掛けである。また一九六〇年五月のリストには「四、平和と人民相互の友好萬歳！」という呼掛けがはじめて加えられている。

(7) 「五、萬國の勤勞者！ 武装および兵力の縮小のため、國際緊張の緩和のために闘え！ 戦争の煽動者と誘發者を暴露せよ！」

(8) 「六、平和の擁護者！ 原水爆兵器の實驗中止と完全禁止を要求せよ！ 原爆戦争の發生を許すな！」

(9) 「八、平和、民主主義と人民の獨立のために闘う共產主義的、社會主義的およびすべての進歩的な諸勢力相互の協力を強化せしめよ！」あるいはまた「七、諸共產黨および諸労働者黨の牢固たる思想的統一と兄弟的な團結萬歳！ マルクスレーニン主義の旗をより高く掲げよ！」ともある。

(10) 「一〇、社會主義諸國の人民！ われわれの力は兄弟的な友好と相互援助にある！」あるいはまた「九、社會主義陣營内の諸國の人民の偉大な友情萬歳！」ともある。

(11) 數的にみると、「世界の人民」あるいは「萬國の人民」を對象としたアピールの數は、一九五七年五月のリストでは僅かに一であつたが、その後、二、三、四、五と増加している。しかもこのような變化は「世界の人民」あるいは「萬國の人民」を對象としたアピールの新設によるというよりはむしろ、「萬國の勤勞者」から「世界の人民」へ、あるいはまた「平和の擁護者」から「萬國の人民」へといった對象の變更乃至修正、いいかえると對象の一般化によつて生じている。たとえば一九五八年五月のリストでは「五、萬國の勤勞者！ 原水爆兵器の禁止のため、武装および兵力の縮小のために闘え！ 新しい戦争の危険にたいし、平和と人民相互の協力のために全力をあげて闘争せよ！」とあつたが、一九五八年一月のリストでは「一〇、世界の人民！ 原水爆兵器の禁止のため、武装および兵力の縮小のために闘え！」とあつたが、一九五八年一月のリストでは「一〇、世界の人民！ 原水爆兵器の禁止のため、武装および兵力の縮小のために闘え！」とあり、一九五九年五月のリストでは「九、萬國の人民！ 平和の維持と確保のための闘争を強化せよ！ 帝國主義的な戦争誘發者を斷呼暴露せよ！ 搖がぬ平和と人民相互の協力のために！」、「一〇、世界の人民！ 原水爆兵器の即時實驗停止と永久禁止をアメリカ合衆國政府とイギリス政府に要求せよ！ 武装と兵力の縮小のために闘え！」、「一一、萬國の人民！ 冷い戦争の停止と國際緊張の緩和に努力せよ！ 可及的に速かなドイツとの平和條約締結と西ベルリンの占領體制解消のために！」とある。

(12) たとえば一九五八年五月のリストでは「七、萬國の諸共產黨および諸労働者黨——労働者階級ならびに全勤勞者の前衛萬歳！ 平和、民主主義と社會主義のための闘争におけるかれらの兄弟的な協力を強化せしめよ！」、「九、強力な社會主義陣營——平和と人民の安全の確實な防壁萬歳！ 社會主義諸國の人民相互の大いなる友情を強化、開花せしめよ！」と、一九五八年一月のリストでは「五、萬

國の諸共產黨および諸労働者黨——平和、民主主義と社會主義のための闘争における労働者階級ならびに全労働者の前衛に熱い挨拶を送る！ 諸共產黨および諸労働者黨の牢固たる兄弟的な統一と結束萬歳！ マルクスレーニン主義の旗をより高く掲げよ！」「一二、強力な社會主義陣營——平和と人民の安全の堅固な防壁萬歳！ 社會主義陣營内の諸國の人民相互の大きいなる友情を強化、開花せしめよ！」と、一九五九年五月のリストでは「七、萬國の諸共產黨および諸労働者黨——平和、人民の民族的獨立のため、民主主義と社會主義のための闘争における労働者階級ならびに全労働者の前衛に熱い挨拶を送る！ 諸共產黨および諸労働者黨の牢固たる兄弟的な統一と結束萬歳！」「一二、社會主義の世界的組織——平和と人民の安全の堅固な防壁萬歳！ 社會主義陣營内の諸國の人民相互の大きいなる友情を強化、開花せしめよ！」とある。また一九五七年五月のリストでは「三、プロレタリア國際主義の旗をより高く掲げよ！」、一九五七年一月、一九五八年五月のリストでは「一、國際的なプロレタリアートの戰鬪的團結は社會主義事業の不敗の保證である！ プロレタリア國際主義の旗をより高く掲げよ！」、一九五八年一月のリストでは「六、國際的な労働者階級の戰鬪的團結は民主主義と社會主義事業の不敗の保證である！ プロレタリア國際主義の旗をより高く掲げよ！」と呼掛けの対象が擴大され、さらにそれは「萬國の労働者階級」(一九五九年五月のリストの第三のアピール)、「勤勞者」(一九五九年一月のリストの第七のアピール)、「萬國の勤勞者」(一九六〇年五月のリストの第三のアピール)へと一般化されている點も見逃せない。

(13) 一九五七年一月のリストにのみ加えられた八アピールについては註4で紹介したが、この第四、第六、第七、第八、第九の五アピールは一九五七年一月のリスト以外においては第一樂章的な諸アピールとしてではなく、終樂章的な諸アピールとして取扱われている。

(14) 一九五八年五月以前のリストでは第二〇回黨大會に關する呼掛けを第一樂章的な諸アピールの内に求めることはできぬが、第三樂章的な諸アピールとしては登場している。

(15) 一九五六年一月のリストでは、このリストに記載された順に列擧すると中國、ポーランド、チェコスロバキア、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、アルバニア、モンゴル、ユーゴスラビア、朝鮮、ベトナム、ドイツへの一二のアピールが、また一九五六年五月のリストでは中國、ポーランド・チェコスロバキア・ハンガリー・ブルガリア・ルーマニア・アルバニア・モンゴル、朝鮮、ドイツ、ユーゴスラビアの五アピールがみられる。

(16) チェコスロバキアへの呼掛けではその対象は、一九五八年一月以前のリストにおいては、「チェコスロバキア共和國の勤勞者」ではなく、「チェコスロバキア共和国の人民」と表示されていた。

(17) 一九六〇年五月のリストによると、「一八、平和のため、民主的なまた平和愛好的な統一ドイツのための闘争における全ドイツの進歩的勢力の防壁——ドイツ民主共和国萬歳。社會主義を建設しつつあるドイツ民主共和国の勤勞者に兄弟的な挨拶を送る！ ソヴェト人



民とドイツ人民相互の友好を強化せしめよ!」「二四、ユーゴスラビヤ人民共和國連邦の勤勞者に兄弟的な挨拶を送る! 平和と社會主義の側に立つ鬭争のためにソヴェト人民とユーゴスラビヤ人民との友好を發展、強化せしめよ!」とある。ドイツへの呼掛け、ユーゴスラビヤへの呼掛けはともにリストによつて必ずしも同じではない。一九五七年五月のリストには「一五、軍國主義の復活に反對し、平和的、民主主義的基礎の上に立つ祖國の統一のために闘いつつある全ドイツの平和愛好的勢力の防壁——ドイツ民主共和國萬歳! 社會主義を建設しつゝあるドイツ民主共和國の勤勞者に兄弟的な挨拶を送る! ドイツ連邦共和國の勤勞者およびすべての進歩的、平和愛好的勢力に兄弟的な挨拶を送る! ヨーロッパの平和のためにドイツ人民とソヴェト人民相互の友好を強化せしめよ!」「二九、社會主義を建設しつゝあるユーゴスラビアの勤勞者に兄弟的な挨拶を送る! ソヴェト連邦の人民とユーゴスラビア連邦人民共和國の人民との牢固たる友好と協力萬歳!」とあつた。

(18) 一九五七年一月のリストではビルマ・インドネシアへの呼掛けに新たにセイロン・カンボヂヤが加えられ、スエーデン・ノールウェイ・デンマーク・アイスランド、オーストリアへの二アビールが新設された。一九五八年五月のリストではインドネシアはビルマ・セイロン・カンボヂヤとは別個の獨立した呼掛けをもつて扱われたが、一九五八年一月のリストでは両者は一つの呼掛けに綜合され、一九六〇年五月のリストで再び分離されている。また、一九五八年一月のリストではヨルダン・レバノン、統一アラブ、イラク、アフリカ、ラテンアメリカへの五アビールが、一九五九年五月のリストではドイツへのアビールが、一九五九年一月のリストではアフガニスタンへのアビールがそれぞれ新設されている。

(19) 一九五七年五月のリストには、對象別に列擧すると、インド、イギリス・アメリカ合衆國・フランス、イタリヤ、フィンランド、日本、近東アラブ、インドネシア・ビルマ、植民地および從屬國の人民への九アビールが、又一九六〇年五月のリストには、「三〇、インドネシア、ビルマ・セイロン・カンボヂヤ、アフガニスタン、アラブ諸國、アフリカ、ラテンアメリカ、アメリカ合衆國、イギリス、フランス、ドイツ、イタリヤ、フィンランド、スエーデン・ノールウェイ・デンマーク・アイスランド、オーストリア、日本の一六アビールがみられる。

(20) 一九五八年五月以前のリストではインド、インドネシア、ビルマ、セイロン、カンボヂヤへの呼掛けはすべて「兄弟的な挨拶一を送つていたが、一九五八年一月以後のリストではそれが「熱い挨拶一に改められた。たとえば一九五七年一月のリストには「三〇、祖國の發展のため、アジアと全世界の平和のために闘いつつある偉大なインドの人民に兄弟的な挨拶を送る! ソヴェト連邦の人民とインドの人民相互の友好と協力を強化せしめよ!」とあつたが、一九五九年一月のリストには「二六、偉大なインド人民に熱い挨拶を送る! ソヴェト連邦の人民とインドの人民相互の友好と協力を強化せしめよ!」とある。

(21) いずれのリストにおいてもその第二樂章的な部分はレーニン主義的な對外政策を稱える呼掛けをもつて終つてゐる。一九五八年一月以前のリストでは「社會體制を異にした諸國家の平和的共存の政策、平和の維持と確保の政策、すべての國々との經濟的および文化的な關係促進の政策であるソヴェト連邦のレーニン主義的な對外政策萬歳！」(傍點筆者)とあつたが、一九五九年五月および一月のリストでは傍點の箇所が「……平和と人民の安全の維持と確保の政策……」と、また一九六〇年五月のリストでは「……平和と人民の安全の維持と確保の、人民の自由と獨立の尊重の政策……」と改められてゐる呼掛けがそれである。第一樂章的な、特に第二樂章的な諸アビールの變化の一面を知る上に、この呼掛けの變化の過程は貴重である。

## 二

一九六〇年のメーデーのブリズィーヴィすなわちリストを例にとるとこのリストの第四二から第九七に至るまでの諸アビール、いしかえると對内的な諸アビールからなるリストの後半は、いずれのリストにおいても、その前半と同様に二つの部分に分けられる。すなわち、軍隊・労働者階級およびコルホーズ農民・諸民族を對象とした諸アビール、勤勞者一般を對象とした諸アビール、勤勞者を個別に對象とした諸アビールによつて組立てられた第三樂章的な部分と、「共產主義——全人類の輝ける未來萬歳！」という呼掛けをもつて終る一連の諸アビールからなる終樂章的な部分から構成されている。

### 三 第三樂章的な諸アビール

軍隊、労働者階級およびコルホーズ農民、諸民族を對象とした諸アビール これらの呼掛けはいずれのリストにもあり、また配列も常に一致し、内容的な變化も著しくはない。しかし、軍隊への呼掛けにみられる變化、具體的というと、一九五七年五月のリストでは「國家の利益とわが祖國の安全を護る勇敢なソヴェト軍事に榮光あれ！」と、一九五七年一月および一九五八年五月のリストでは「わが祖國の安全を護る勇敢な、勝利の榮光に輝くソヴェト軍事力萬歳！」(傍點筆者)

とあつたが、この傍點の箇所が、一九五八年一月のリストでは「國家の利益とわが祖國の安全を油斷なく護る……」と、一九五九年五月以後のリストでは「平和、國家の利益およびわが祖國の安全を油斷なく護る……」と改められていることを指摘しておきたい。呼掛ける對象の性格、「國家の利益」という語の判明な意味そしてまたこの語の復活の時をあわせ考えるならば、前述のような修正あるいは變更を單なる修辭上の乃至はまた表現技術上の要求に因るものとみなすことは許されまいからである。しかもまた注目すべきことには、「労働者階級およびホルホズ農民」と「ソヴェト連邦の諸民族」への呼掛けは、一九五七年五月以後、實質的な意味においてはほとんどあるいは全く變化していない。

勤勞者一般を對象とした諸アピール これらのアピールの數および配列、したがつてまたその内容にみられる顯著な變化は、一言にしていえば七カ年計畫に關する呼掛けの登場ということになる。すなわち一九五八年一月以前のリストにおいては、「第二〇回黨大會の諸決定の實現」・「第六次五カ年計畫の目標の期限前遂行」・「一九五七年度の國民經濟計畫の期限前遂行」・「工業および建設の管理組織の完成」、あるいは「第二〇回黨大會の諸決定の實現」・人口一人當りの生産高において先進資本主義國に追付き追越すための「全國民的な社會主義競争の展開」・「工業および建設の新管理制度の活用」、または、第二一回黨大會を記念する「全國民的な社會主義競争の展開」・人口一人當りの生産高においてアメリカ合衆國に追付き追越すという「歴史的な問題解決のための大衆運動の展開」・「工業および建設の新管理制度の活用」といつたような呼掛けが勤勞者一般に送られていたが、一九五九年五月以後のリストにおいては、「七カ年計畫の遂行と超過遂行」・人口一人當りの生産高において先進資本主義國に追付き追越すという「歴史的な任務の遂行」・「すべての工場および建設所、すべてのコルホーズおよびソフホーズによる七カ年計畫の遂行と超過遂行」・「七カ年計畫の第一年目に當る一九五九年度の國民經濟計畫の期限前遂行」・「先驅的な經驗と新しい技術の生産への移植」、あるいは、經濟および文化の高揚と「社會主義的な祖國の威力のより以上の強化」・人口一人當りの生産高における「資本主義との平和的な競争においての勝利の達成」・「すべて

の工場および建設所、すべてのコルホーズおよびソフホーズによる七カ年計畫の期限前遂行<sup>(22)</sup>、または、「七カ年計畫の遂行と超過遂行<sup>(23)</sup>」・人口一人當りの生産高における「資本主義との平和的な競争においての勝利の達成<sup>(24)</sup>」・「七カ年計畫の第二二年に當る一九六〇年度の國民經濟計畫の期限前遂行<sup>(25)</sup>」といった呼掛けが勤勞者一般に與えられている。

すなわち一九五九年五月以後のリストにおいて、對内的な主として第三樂章的な諸アピールの基調に變化が認められる。「七カ年計畫の遂行と過程遂行<sup>(26)</sup>」、「人口一人當りの生産高においてアメリカ合衆國に追付き、追越そう<sup>(27)</sup>」という新たな主題が勤勞者一般を對象とする諸アピールを通して打出されるに至つた。もつともかかる主題が一九五九年五月のリストで突然に提示されたわけではない。新しい主題提示のための準備的な努力と配慮が一九五八年以前の勤勞者一般を對象とした諸アピールのうちに認められる<sup>(28)</sup>。しからば勤勞者を個別に對象とした諸アピールにはどのような變化がみられるか。

勤勞者を個別に對象とした諸アピール　この種のアピールは、對象が個別である關係上當然のことであるが、常に相當な數に達している。一九五七年五月のリストでは二九の、またその後のリストでは、二八、三一、三一、三四、三二、三五のアピールが數えられる。勿論リストによつてアピールの新設乃至は復活あるいは除去があり、また配列にも若干の變動がみられなくもないが、ここで逐一紹介するまでのこともないので、つぎにリストによる内容上の變化を要約してみよう。

第一に、「工業、建設および運輸の從業員」、「重工業從業員」、「石油およびガス産業從業員」、「化學工業從業員」、「建設資材工業從業員」などへの呼掛け<sup>(29)</sup>についてみると、大きな變化は見當らない。むしろ、一般的には著しい變化のみられないことこそ注目されねばならないところであらう。たとえば、重工業への呼掛けが一九五八年五月以前のリストでは「重工業は全國國民經濟のより一層の高揚、人民の物質的福祉と文化的水準の向上、われわれの威力と安全の強化、の基礎である！重工業從業員に榮光あれ！」（傍點筆者）とあり、一九五八年一月以後のリストでは傍點の箇所が「……人民の福祉の増進とわが祖國の防衛力の強化、……」と修正されているに過ぎず、したがつて重工業にたいする基本的な態度乃至期待は、少

くとも呼掛けの上では、一貫して變つてないといえよう。しかしリストによる變更が全くみられないというのではない。たとえば、一九五八年一月のリストの「ソヴェトの冶金技術者」への呼掛けでは「……より多くの鑛石、鑄鐵、鋼鐵、軌道、非鐵金屬および稀金屬を國民經濟へ！」とあつたが、一九六〇年五月のリストでは「……より多くの鑛石、鑄鐵、鋼鐵、軌道、鋼管、非鐵金屬および稀金屬を國民經濟へ！」と改められたような變化はしばらく措くとしても、一九五七年五月以來生産性の向上が、また特に一九五九年五月以後生産技術の改新・生産工程の綜合的機械化と自動化あるいは生産の合理化・原價の引下げが個別的な對象への呼掛けにおいて執拗に強調され來つてゐることは記憶されねばならない。

第二に、「輕工業従業員」、「食品工業従業員」、「通信機關従業員」、「漁業従業員」などへの呼掛けについてみると、これらの呼掛けには特に注目すべき變化は見當らないが、一九五九年五月以後のリストには「地方的産業および協同組合的産業の従業員！ 供給量を増加させよ、生産品の質を向上させまた原價を引下げよ！ 住民への日常的なサービスを全力をあげて改善せよ！」という呼掛けがはじめて登場している。勿論この呼掛けにみられるような生産性の向上特に品質の向上と原價の引下げという要求は、いずれの呼掛けにも強弱の差こそあれ等しく認められる。

第三に、「男子ホルホーズ員および女子ホルホーズ員、ソフホーズ員およびP.T.O従業員、農業専門家」、「未開墾地の辛勞者」などへの呼掛けについてみると、これらの呼掛けにおいても、農業管理機構の改組あるいは増産されるべき農産物の品目の修正<sup>(32)</sup>を示す具體的な變化がみられる反面、國民の食需要と工業の原料需要を完全にみだし、國家の他のすべての農産物需要をみたすことを可能にするような生産水準の達成、換言すると農業における労働生産性の向上・農産物の原價の引下げ・農業の機械化と農業技術の改善という要請が常に一貫して強調されていることに氣付く。特に、一九五九年五月以後のリストでは「男子ホルホーズ員および女子ホルホーズ員、ソフホーズ従業員および農業専門家！ 科學と技術の成果を農業生産に大膽に移植せよ！ 原價の引下げに根氣強く努力せよ！」という呼掛けが重複的に加えられている。すなわちホルホ

ーズ員、ソフホーズ従業員および農業専門家にたいする呼掛けの主體の期待と要求とがさらに強調されてきたわけである。

第四に、「ソヴェトの公務員」、「學者および高等教員」、「印刷、ラジオ、テレビジョン、出版および文化・啓蒙機關の勤務員」、「醫療機關の勤務員」などへの呼掛け<sup>(34)</sup>についてみると、その多くはさして變つてないが、「文學および藝術の活動家」への呼掛けにおいては、その活動を通してソヴェト人の偉大さ・美しさと英雄的な行爲を表現すべきことが、また「學者および高等教員」への呼掛けでは教育と生産との關係の緊密化が、いずれも、一九五九年五月以後のリストにおいては強く求められている點に注目を引く。また一九六〇年五月のリストには「印刷、ラジオ、テレビジョン、出版および文化・啓蒙機關の勤務員」への呼掛け<sup>(35)</sup>が新たに加えられていることも見逃せない。

#### 四 終樂章的な諸アピール

いづれのリストも「共產主義——全人類の輝ける未來萬歲！」という呼掛け<sup>(36)</sup>をもつて終る一連の、すなわち一九六〇年五月のリストを例にとるとその第八四から第九七に至るまでの、いわば終樂章的な諸アピールを備えている。しかしアピールの数はリストによつて一定してない。一九五七年五月のリストでは一〇であつたが、その後、七、一七、一六、一四、一四、一四と増減している。したがつて一九五七年一月のリストでの減少と一九五八年五月および十一月のリストでの増加が差當つての問題とならう。一九五七年一月のリストでの減少は「勤勞者代議員諸ソヴェト」、「ソヴェトの勞働組合」、「ソヴェトの婦人」、「共產青年同盟」、「ソ連邦共產黨」を對象とした五アピール<sup>(37)</sup>が、このリストにおいてのみ第一樂章的な諸アピールとして取扱われたためであり、また一九五八年五月および十一月のリストでの増加はこれらのリストにのみ「ソヴェト連邦の英雄的な勞働者階級萬歲!」、「ソヴェト連邦の榮あるコルホーズ農民萬歲!」、「わが人民的なインテリゲンツィヤ萬歲!」という三アピール<sup>(38)</sup>が加えられたためである。しかも一九五九年五月以後のリストには「わが愛するソヴェト政府萬

歳！」という呼掛けが新たに登場している。いずれも注目すべき点である。

すなわち終業章的な諸アピールに属する呼掛けにはリストによる内容的な変化が一般にはほとんどみられない。若干の呼掛けには見逃せない変化が認められるが、多くはリストのいかんにかかわらず不変である。終業章的な諸アピールである以上當然に要求されたところであるかも知れない。したがって甚だ簡明な内容を直線的に表現している既述のような呼掛けの新設あるいは除去、乃至はまた著しい配列上の變更は問題視されねばなるまいと考える。

- (1) 一九五七年五月のリストでは「三三、労働者階級の指導の下における労働者階級とコルホーズ農民の同盟——ソヴェト体制の搖ぎなき基礎萬歳！」と、一九五七年一月および一九五八年五月のリストでは「労働者階級とコルホーズ農民の同盟——ソヴェト体制の搖ぎなき基礎萬歳！」、一九五八年一月のリストでは「四二、労働者階級とコルホーズ農民の同盟——ソヴェト体制の堅牢にしてまた搖ぎなき基礎萬歳！」、一九五九年五月、一月および一九六〇年五月のリストでは「労働者階級とコルホーズ農民の牢固たる同盟——ソヴェト体制の堅牢にしてまた搖ぎなき基礎萬歳！」とある。
- (2) 一九五七年五月のリストでは「三四、ソヴェト連邦の諸民族相互の兄弟的な友好——多民族的なわが社會主義國家の威力の源泉を開花せしめよ萬歳！」とあるが、一九五七年一月以後のリストでは「ソ連邦の諸民族相互の兄弟的な友好——多民族的なわが社會主義國家の力と威力の源泉を開花せしめよ萬歳！」とある。
- (3) リストによつては労働者一般を対象とした諸アピールの枠は、たとえば非社會主義諸國を対象とした諸アピールのその内には、必ずしも明確には設定され難い。個別的な労働者を対象としたアピールが労働者一般を対象とした諸アピールの枠内に組入れられている場合、あるいはまたその逆の場合があるからである。たとえば一九五九年一月のリストでは人工惑星の創造に寄與した「ソヴェトの科學者、設計者、技師、技手、労働者」への呼掛け(第四六のアピール)が資本主義國との平和的な競争を訴える「都市および農村の労働者」への呼掛け(第四七のアピール)に先立って、すなわち労働者一般を対象とした諸アピールのなかにおかれており、また労働時間の短縮に関する「ソヴェト連邦の労働者」への呼掛けは一九五九年一月のリストでは労働者一般を対象とした諸アピールのうちに(第五〇のアピール)、一九六〇年五月のリストでは労働者を個別に対象とした諸アピールのうちに(第五一のアピール)おかれている。
- (4) 一九五七年五月のリストの第三五のアピール。それは「三五、ソヴェト連邦の労働者！ ソ連邦共産黨第二〇回大會の諸決定の實現に、共産主義の建設という偉大な事業にわれわれの全力を動員しよう！」とある。

- (5) 一九五七年五月のリストの第三六のアピール。
- (6) 一九五七年五月のリストの第三七のアピール。
- (7) 一九五七年五月のリストの第三八のアピール。
- (8) 一九五七年一月のリストではその第四四の、一九五八年五月のリストではその第三七のアピール。
- (9) 一九五七年一月のリストではその第四五の、一九五八年五月のリストではその第三八のアピール。それは「三八、ソヴェト連邦の勤勞者！ 全國民的な社會主義競争をより一層廣範に展開しよう！ 人口一人當りの生産高において先進資本主義諸國に追付き追越せよう！」とある。
- (10) 一九五七年一月のリストではその第四六の、一九五八年五月のリストではその第三九のアピール。
- (11) 一九五八年一月のリストの第四四のアピール。それは「四四、ソヴェト連邦の勤勞者！ わが國の經濟と文化の新たな高揚のために全國民的な社會主義競争をより一層廣範に展開しよう！ 新たな勞働功績をもつてソヴェト連邦共産黨第二一回大會を記念しよう！」とある。
- (12) 一九五八年一月のリストの第四五のアピール。
- (13) 一九五八年一月のリストの第四七のアピール。
- (14) 一九五九年五月のリストの第四三のアピール。「四三、ソヴェト連邦の勤勞者！ 七カ年計畫を遂行しまた超過遂行し、わが國の經濟と文化の新たな堂々たる高揚、社會主義國家の威力のより一層の強化を達成しよう！ 共産主義建設の新たな勝利へ、前進せよ！」とある。
- (15) 一九五九年五月のリストの第四四のアピール。
- (16) 一九五九年五月のリストの第四五のアピール。「四五、ソヴェト連邦の勤勞者！ すべての工場および建設所、すべてのコルホーズおよびソフホーズによる七カ年計畫の遂行と超過遂行のために闘え！ 七カ年計畫の成功的な遂行は人民の物質的福祉と文化的水準のより一層の向上の保證である！—とあるこの種の呼掛けは、勿論一九五九年五月のリストにおいてはじめて登場している。
- (17) 一九五九年五月のリストの第四六のアピール。「四六、都市および農村の勤勞者！ 七カ年計畫の第一年に當る一九五九年度の國民經濟計畫の期限前遂行のための全國民的な社會主義競争をより一層廣範に展開しよう！—とある。勿論この種の呼掛けは一九五九年五月以後のリストにのみみられる。
- (18) 一九五九年五月のリストではその第四七のアピール。すなわち「四七、共産主義建設者の最右翼に立つ生産の先驅者および革新者に



榮光あれ！」とあるこの呼掛けは、一九五八年一月のリストに登場している。

(19) 一九五九年一月のリストの第四五のアービル。

(20) 一九五九年一月のリストの第四七のアービル。

(21) 一九五九年一月のリストの第四八のアービル。内容は一九五九年五月のリストの第四五のアービルと同一である(註16参照)。

(22) 一九六〇年五月のリストの第四五のアービル。一九五九年五月のリストの第四三のアービルと内容的には變つてない(註14参照)。

(23) 一九六〇年五月のリストの第四六のアービル。「四六、都市および農村の勤勞者！ 最短期間における資本主義との平和的な競争の勝利の達成に努力しよう！ 人口一人當りの生産高においてアメリカ合衆國に追付き追越そう！」とある。

(24) 一九六〇年五月のリストの第四七のアービル。内容的には一九五九年五月のリストの第四六のアービルと同一である。もつとも「一九五九年度の國民經濟計畫……」は「一九六〇年度の國民經濟計畫……」と修正されている(註17参照)。

(25) たえば「生産の先驅者および革新者」への呼掛け(一九五九年五月のリストのそれは註18参照)が一九五八年一月のリストで新設されている。

(26) これらの呼掛けの對象を一九六〇年五月のリストによつて紹介してみると、「五〇、男子従業員および女子従業員、技師、技手および職長！……」、「五一、ソヴェト連邦の勤勞者！……」、「五二、工業、建設および運輸の従業員！」、「五三、重工業……。重工業従業員に榮光あれ！」(本論参照)、「五四、ソヴェトの冶金技術者！……」、「五五、ソヴェトの動力工業従業員、發電所および送電網の建設者および機械組立技師！……」、「五六、機械製作工業従業員！……」、「五七、石油およびガス工業従業員！……」、「五八、石炭工業従業員！……」、「五九、化學工業従業員！……」、「六〇、建築従業員！……」、「六一、建築資材工業従業員！……」、「六二、林業、木材加工および製紙工業従業員！……」となる。「石油およびガス工業従業員」と「石炭工業従業員」への呼掛けは一九五九年五月以後のリストではじめて別個に取扱われていること、また一九五九年一月以前のリストでは「ソヴェトの動力工業従業員、發電所および送電網の建設者および機械組立技師」への呼掛けが「燃料工業従業員」への呼掛けの後におかれていたことが注意を引く。

(27) たえば一九五八年一月のリストでは「林業、木材加工および製紙従業員！ より多くの木纖維、標準家屋、家具、セルローズおよび上質紙を國家に引渡そう！」(傍點筆者)とあつたが、一九五九年五月のリストでは傍點の箇所が「……木纖維、家具、……」と變つている。

(28) たえば一九五八年一月以前のリストでは「工業、建設および運輸の従業員！ 進歩的な經驗を生産の内に移植せよ！ 技術の進歩および全力的な勞働生産性の向上のために、聞え！」(傍點筆者)とあつたが、一九五八年一月のリストでは傍點の箇所が「進歩的な

經驗と新しい技術を生産の内に移植せよ！ 技術の進歩および全力的な労働生産性向上のために……」と、一九五九年五月のリストでは「総合的な機械と自動化を生産の内により廣範に移植せよ！ より一層の技術的進歩のため、労働生産性の不斷の増大のために執拗に……」と改められており、また一九五八年一月のリストでは「五四、燃料工業従業員！ 國家計畫の遂行と超過遂行のために闘え！ ガス工業をより速かに發達させよ！ より多くの石炭、石油およびガスを國に引渡そう！」とあつたが、一九五九年五月のリストでは「五五、石油およびガス工業従業員！ 石油およびガスの新しい埋藏地開發の速度を不斷に高めよ！ 製油工場の効率を高めよ！ 新しい施設の建設とガスパ敷設の期間を短縮せよ！ より多くの石油およびガスを國に引渡そう！」、「五六、石炭工業従業員！ 効果的な石炭採掘方法をより廣範に移植せよ！ 原價を引下げ、石炭の品質を高めよ！」とある。

(29) これらの呼掛けの對象を一九六〇年五月のリストによつて紹介してみると、「六三、輕工業従業員！……」、「六四、食品工業従業員！……」、「六五、漁業従業員！……」、「六六、ソヴェトの運輸従業員！……」、「六七、通信機關従業員！……」、「六八、地方的産業および協同組合的産業の従業員！……」となる。

(30) 一九五八年一月以前のリストでは「輕工業従業員！ より多くの良質のそして美麗な纖維製品、立派な衣類、耐久力のある優美な履物およびその他の日常必需品を引渡そう！」(傍點筆者)とあつたが、一九五九年五月および一月のリストでは傍點の箇所が「……一般必需品を勤勞者に……」と、一九六〇年五月のリストでは「……日常必需品をソヴェト人に……」と改められていること、すなわち引渡されるべき對象の表現にみられる變化には興味があらう。

(31) これらの呼掛けの對象を一九六〇年五月のリストによつて紹介すると、「六九、男子コルホーズ員および女子コルホーズ員、ソフホーズおよびPTC従業員、農業専門家！……」、「七〇、農業の辛勞者！……」、「七一、男子コルホーズ員および女子コルホーズ員！……」、「七二、男子コルホーズ員および女子コルホーズ員！……」、「七三、ソフホーズ従業員！……」、「七四、未開墾地の辛勞者！……」、「七五、男子コルホーズ員および女子コルホーズ員、ソフホーズ従業員および農業専門家！……」である。なお農業關係の呼掛けに續いてつぎのような呼掛けがおかれている。すなわちそれは、一九六〇年五月のリストでは「七六、ソヴェトの通商および社會給養施設の従業員！ 住民への奉仕をよりよくするために闘え！ 需要をよりよくつかみそして勤勞者の増大する欲求に應じよ！」とある。

(32) たとえば一九五七年五月のリストでは「五四、男子コルホーズ員および女子コルホーズ員、MTCおよびソフホーズ従業員、農業専門家！ より多くの穀物、食肉、牛乳、原綿、羊毛、亞麻、馬鈴薯、野菜およびその他の農産物を國家に引渡そう！」(傍點筆者)とあつたが、一九五七年一月のリストでは傍點の箇所が「……ピート、馬鈴薯、野菜、果實および……」と改められ、一九五八年五月のリストでは「六〇、男子コルホーズ員および女子コルホーズ員、ソフホーズ、PTCおよびMTC従業員、農業専門家！ 労働の生産性を

高めそして農業生産物の原價を引下げよ！ より多くの穀物、食肉、牛乳、原綿、羊毛、亞麻、ビート、馬鈴薯、野菜、果實およびその他の農産物を祖國に引渡そう！」とあるが、一九五八年一月のリストでは「六七、男子コルホーズ員および女子コルホーズ員、ソフホーズおよびPTC従業員、農業専門家！ より多くの穀物、食肉、牛乳、羊毛、原綿、亞麻、ビート、馬鈴薯、野菜、果實およびその他の農産物を祖國に引渡そう！ 農業收穫率の全力的な向上と農産物原價の引下げのために闘え！」(傍點筆者)と、また一九五九年五月のリストでは傍點の箇所が「……羊毛、鶏卵、原綿、亞麻、甜菜、馬鈴薯、……」と改められている。

(33) 一九六〇年五月のリストの第七五のアピール。なおこの呼掛けは一九五九年五月のリストで新設されており、それは「七五、男子コルホーズ員および女子コルホーズ員、採算のとれるよう農業經濟を管理せよ、よりよく土地を利用せよ！ 輪作をよりすばやくせよ！ 生産革新者の經驗と科學の成果をより廣く利用せよ、労働の生産性を高めよ！ 一〇〇ヘクタール當りのより多くの農收量の獲得に努力せよ！」とあり、また一九五九年一月のリストでは「七八、男子コルホーズ員および女子コルホーズ員、ソフホーズ従業員および農業専門家！ 採算のとれるよう經營を管理せよ、よりよく土地を利用せよ、輪作をよりすばやくせよ！ 全力をあげて農業技術を高めよ！ 一〇〇ヘクタール當りのより多くの農收量の獲得に努力せよ！」とある。

(34) これらの呼掛けの對象は一九六〇年五月のリストによると、「七七、ソヴェトの公務員！……」、「七八、學者および高等教員！……」、「七九、ソヴェトの科學者、教師、技手、労働者！……」、「八〇、文學および藝術の活動家！……」、「八一、印刷、ラジオおよびテレビジョン、出版および文化・啓蒙機關の勤務員！……」、「八二、教育者！……」、「醫療機關の勤務員！……」である。前記した第七九のアピールは人口惑星の打上げに貢獻した科學者・技師・技手・労働者に送られたものであるが、同種の呼掛けは一九五九年一月のリストでは労働者一般を對象とした諸アピールの内に組入れられている。また一九五七年一月のリストには大陸間彈道彈の完成に寄與した「ソヴェトの科學者、労働者および技師」への呼掛け(第七一のアピール)がみられる。

(35) 「八一、印刷、ラジオおよびテレビジョン、出版および文化・啓蒙機關の勤務員！ 常勝の共産主義思想、進歩的な經驗、人類の蓄積した精神的な富を大衆に倦まず傳える案内人たれ！」とある。

(36) この呼掛けの登場は一九五七年一月のリストにはじまる。一九五七年五月以前のリストでは「マルクスレーニン主義の旗の下に、共産黨の指導の下に——共産主義の勝利へ、前進せよ！」という呼掛け、すなわち一九五七年一月以後のリストでは終りから二番目の呼掛け——一九六〇年五月のリストを例にとるとその第九六のアピールに當る——をもつて閉じられている。

(37) 前章の註4参照。

(38) 本論では指摘していないが、「共産主義の建設者である偉大なソヴェト人民萬歳！」という呼掛けが一九五七年一月および一九五

八年一月のリストでは除去されている。

(39) 一九五八年一月以前のリストでは「ソヴェトの労働組合！ 勤勞者の創造的積極性を發達させよ、生産管理に労働者をより廣範に引入れよ！ 労働者および公務員の物質的福祉と文化的水準のより一層の向上に倦むことなく配慮せよ！」とあつたが、一九五九年五月以後のリストでは「ソヴェトの労働組合！ 労働者階級およびインテリゲンツィアの創造的な才能と積極性を全力をあげて發達させよ！ 労働者と公務員の物質的福祉と文化的水準のより一層の向上に倦むことなく配慮せよ！ 七カ年計畫の遂行に勤勞者の努力を動員せよ！」(傍點筆者。なおこの傍點の箇所が一九六〇年五月のリストでは、「より大きな配慮を」と、また「あらゆる努力」と改められている)とあり、また一九五八年五月以後のリストでは「青年男女！ わが偉大な人民の立派な息子と娘、携まぬ共産主義建設者たれ！」とあり、一九五八年一月のリストでは「青年男女！ 共産主義的な生活と労働を學べ！ 積極的なまた携まぬ共産主義建設者たれ！」とあつたが、一九五九年五月以後のリストでは「男子共産青年同盟員および女子共産青年同盟員、ソヴェトの若者！ 共産主義的な生活と労働を學べ！ すぐれた倫理性を育成せよ！ 意識的な携まぬ共産主義建設者たれ！」とある。

## む す び

以上、一九五七年のメーデーから一九六〇年のメーデーに至るまでの間の諸ブリズィーヴィすなわち諸リストを相互に比較検討し、特に第二樂章的なおよび第三樂章的な諸アピールに現われた變化の著しいものを具體的に指摘してみた。そこにおいては、これらの個々の變化が第一樂章的な諸アピールならびにソヴェトの勤勞者一般を對象とした諸アピールにみられた主題上の發展に對應して、より正確に言えば基礎づけられて進行していることが提示されたはずである。たとえば、世界平和の確保と社會主義陣營の結束の強化という主題の高まり・加速度的な強調は、社會主義諸國を個別に對象とした諸アピールの配列上の變化、かかるアピールへの「永遠の」という一語の挿入などに、あるいはまた非社會主義諸國を個別に對象とした諸アピールにおいて特に頻度を加えるに至つた「平和」という語の使用などに投影されており、七カ年計畫の遂行という主題上の變化は、勤勞者を個別に對象とする諸アピールにみられた種々の具體的な訴えまたは要求の修正・變更とな

つて現われている。また、諸アピールに現われた個々の變化の足跡は、呼掛ける主體の對外政策および對內政策一般の發展過程あるいはその個別的・現實的な態様を知る上の貴重な手掛りともなる。たとえば、中華人民共和國、インド、インドネシアの人民には敢えて「偉大な」という語が冠されていること、「熱い挨拶」を送られている非社會主義國への呼掛けはその内容にしばしば手が加えられていることは、いずれも決して偶然ではないはずである。ソヴェトの勤勞者を個別に對象とした諸アピールについては述べるまでもあるまい。勿論、諸アピールにみられる個々の具體的な變化を綜合的・統一的に把握することによつてますます多くの問題點が展示され、検討されるべき領域は擴大される。すなわち一九五七年のメーデーから一九六〇年のメーデーに至る間の諸ブリズィーヴィイを展望すると、そこに新しい動きが、いいかえると諸他のブリズィーヴィイ乃至はアピールとの關連において特に注目されるべき變化が現われている。個々のアピールについていえば、一九五七年一月のリストにおける「共產黨」・「勤勞者代議員諸ソヴェト」・「ソヴェトの勞働組合」・「ソヴェトの婦人」・「共產青年同盟」の五アピール<sup>(1)</sup>の第一樂章的な諸アピールとしての取扱ひ、一九五七年一月以後のリストにおける「勤勞者代議員諸ソヴェト」・「共產主義」<sup>(2)</sup>の二アピールの登場、一九五八年五月および一月のリストのみにおける「勤勞者階級」・「コルホーズ農民」・「インテリゲンツィア」への三アピール<sup>(3)</sup>の登場、一九五八年五月以後のリストにおける「ソヴェト政府」<sup>(4)</sup>へのアピールの登場、一八五八年一月以後のリストにおける「ソ連邦共產黨第二回大會」<sup>(5)</sup>についてのアピールの登場が、それである。また、すべてのリストにみられる「ソヴェトの軍事力」・「勞働者階級とコルホーズ農民」・「ソ連邦の諸民族」へのアピール<sup>(6)</sup>も注視されねばならぬものの一つである。

一般に、アピールの新設・除去は無論のこと、配列の變更あるいは内容にたいする修正・變更も、本論の記述において明らかかなように、絶えず、諸ブリズィーヴィイの連續性の保持という慎重な配慮の上になされており、そのためにか、いずれのブリズィーヴィイも舊套墨守的な性格が強い。しかるに、前記のような諸アピールの出現、新しい動きが認められる。プリズ

イーヴィイ作成者の意圖はどこにあつたのか。もつとも對内的な政治的領域にかかわるこの動き・方向をプリズィーヴィのみを通して判然と具象化することは、今のところでは、困難であるばかりかまた危険でもあろう。しかし最近のプリズィーヴィに、世界平和の確保・社會主義陣營の結束の強化という對外的な主題と七カ年計畫の遂行という對内的な、經濟的な主題の發展に對應する對内的な、政治的な主題定立への努力乃至はそのための苦慮が認められるということは差支えあるまい。かかる努力の方向乃至は苦慮の内容については、稿を改めて取上げよう。

- (1) 第一章註4 参照。
- (2) 第二章註36 参照。
- (3) 第二章註38 参照。
- (4) 第一章「第一樂章的な諸アピール」参照。
- (5) 一九五八年五月のリストではその第八四のアピール。それは「八四、わが愛するソヴェト政府萬歳！」とある。
- (6) 第二章の本論、註1 参照。